

平成 28 年度 第 1 回大阪府立豊島高等学校協議会 開催記録

開催日時	平成 28 年 6 月 17 日(金)
場所	豊島高等学校会議室
出席者	委員 家島氏 (大阪大学専任講師)、大石氏 (財千里文化財団理事)、末永氏 (箕面市立第五中学校長)、奥川氏 (本校 PTA 会長)、湯川 裕子 (豊島会副会長・大阪府 PTA 協議会) 校長 羽根 隆 事務局 佐々木教頭、福井首席、甲田首席、櫻田事務長、田中教務主任、岡本進路部長
校長挨拶	学校の近況報告 ・ 4 月から 6 月までの学校の様子について報告
現状報告と取組	平成 28 年度学校経営計画について <ol style="list-style-type: none"> 1 めざす学校像 2 中期的目標 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学力の向上及び自己表現力の育成と授業改善の取り組み 学力の向上＝わかりやすい授業を構築する。コミュニケーション力 (会話力と英会話力) 及びプレゼンテーション力 (人前での発表) の向上、並びにそれらの肯定率も毎年 1% アップをめざす。 (2) 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する。 <ul style="list-style-type: none"> (a) 進学実績の向上 土曜講習 (Z 会による進学講習)、進学特別ルーム＝会議室の解放 (自習場所の確保)、アドバンス学習ルーム＝視聴覚教室の整備 (大講義室としての利用) を活用し、難関 8 私大 (関関同立、産近甲龍)、中堅私大のべ合格者数の向上をめざす。 (b) キャリアデザインの推進 3 年間のプログラムで、生徒自らの将来を考える機会を設けている。 (3) 自主・自立の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> (a) 通学マナー (規範意識) の向上と挨拶運動の励行に努め、生徒の社会性を育む。 今年の卒業生で皆勤者数は 33 名。今年度の遅刻者数の目標を前年度の 2000 回から 1800 回に減少させ、生徒の規範意識を高める。 (b) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身に着ける。 部活動加入率 72% (昨年度 73%) であり、加入率 75% をめざす。国際交流では、今年も以前から交流のあるオーストラリアのモドボリー高校へ語学研修に赴き、併せて姉妹校提携を締結する予定。 3 本年度の取組内容と自己評価 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学力の向上 校内で学習に取組みやすい環境を構築 進学特別ルーム (会議室) の解放、アドバンス学習ルーム (視聴覚教室) の整備、プレゼンテーションのできる環境の設定、Moodle を使った電子媒体の導入。 (2) 進学実績の向上 勉強合宿の実施 (2 年目)、大学見学バスツアーの実施 (年 2 回)、難関大学の進路実績の伸長。 (3) 自主・自立の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成 クラブ加入率のアップ、国際交流ではオーストラリアモドボリー高校訪問と韓国の慶南女子高校が来校予定。 <p>新 1 年生アンケート分析 (教頭より) 在籍生徒の出身中学所在地は、豊中 40%、箕面 20%、吹田 15%。次年度は、現中学 3 年生が、この地域で 357 人減少する。教員数が減少する中で、現状維持が可能かどうか</p>

	<p>か検討必要。通学不便地域や遠方からの受験生も視野に入れ、入学者数の確保を検討せねばならない。本校受験理由としては、魅力のあるクラブ／クラブ活動の充実、直接豊島高校に来て自分の目で見て、学びたいエリアの存在、選択科目／コース制移行の説明を聞いて等であった。説明会の情報入手法としては、中学の先生に勧められて／中学で案内をもらってなど。受験決定の時期は、冬休み前／中学3年の1月から3月など。入学動機として、進学実績とクラブ活動。また、他校の説明会参加状況については、傾向は例年と変わっていない。</p> <p>進路指導状況（進路部より）</p> <p>4年制大学への進学希望者が増加（過去10年の進路状況より）した。また、今年の卒業生で国立大学に現役2名が合格した。学校として、安易に専門学校や指定校推薦に走らず、最後まで諦めずに受験するよう3月入試まで粘らせている。</p> <p>平成29年度使用教科用図書（検定教科書）の選定方法（教務部より）</p> <p>選定についての周知を徹底（公平性、公正性、透明性の確保）、発行者との利害関係のない者を選任、また、多数決やこれまでの慣例に縛られない採択方法で決定。</p>
<p>協議及び 質疑・応答</p>	<p>A氏：Q) 昨年度の留年者数、転・退学者数、進路未決定者数は何人か。</p> <p>A) 昨年度の留年生は2名、転・退学者は6名、理由のある進路未決定者は5名。期末後の講習等で未決定者が出ない様、自分で将来の進路について考えさせるプログラムを用意している。</p> <p>B氏：豊島は年々良くなっており、中学生の進学希望者も多い。授業改善の方向性、高校卒業後の方向性を考えさせるキャリアデザインの構築もしているのは素晴らしい。コース制になって少し心配している。普総選の時との違いが分かりにくい。中学校で家庭学習の取組を行うと生徒が穏やかになる。中学でしんどかった生徒も豊島で自己実現し、豊島に行ったら良かったと本当に喜んでいる生徒もいる。家庭学習の大切さも痛感している。</p> <p>C氏：Q) コース制で以前の普総選の選択エリアは活かされているのか。</p> <p>A) できるだけ、以前の普総選の形を吸収できるようにした。更に、コース制は専門科目が2科目増えており、より深化しているとアピールしている。現1年生の希望調査では、普通科希望57%、コース希望43%である。理数コースの70名は今までになく多くなっている。中学生向け説明会で決定する生徒が多いので、どう説明するかが大切であると思っている。</p> <p>B氏：中学校では、自分が行きたい説明会に参加するように指導している。</p> <p>D氏：中学での基礎学力の定着ができていると、中高が連携して、高校生活のキャリアデザインも充実して行える。</p> <p>B氏：中学校でも家庭学習の定着は大切であるので、めざしている。</p> <p>D氏：生徒のアンケートのマイナス面に、学校を変えていくヒントが隠されている。</p> <p>E氏：アンケートのパーセンテージは数値であり、実数は何を基準に取るかで操作できる。新1年生のアンケート項目に、豊島は第何番目希望の高校であったかという項目があれば、不本意入学かどうか分かる。卒業まで追跡調査すれば、不本意入学の生徒がどう変わったか等探ることができる。3年間の高校生活の満足度を数値で表すことができれば、外部に出すアピールに利用できる。進路実数だけでなく卒業進路に対する満足度を調べれば、第1希望への入学なのかが分かる。ICTを利用した家庭学習は、主流の時代になる。企業が開発しているアプリにも目を向け、情報収集すれば活用範囲や利用できるアイデアが広がる。</p> <p>A氏：Q) 今年、国公立大をめざす生徒は何人いるか。</p> <p>A) 先日の実力テストで5教科7科目を受験した生徒は5名いる。</p> <p>Q) 留学を希望する生徒はいるか。</p> <p>A) 数年前はいた。卒業してから留学している生徒は数名いる。</p>